

# 草加リノベーションまちづくり見学会活動記録

## ■ 企画趣旨

旧日光街道沿いのまちでは、まちの魅力を掘り越こして情報発信する「まち案内人」の活動が広がっています。さらに、まちの魅力となる歴史ある建物や空家を活用する取り組みもまだ数は少ないですが始まっています。

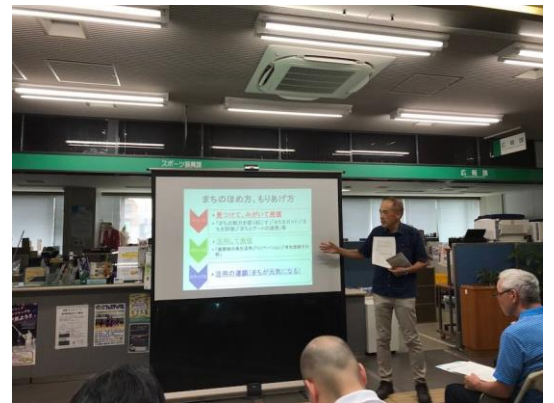
草加市では、旧道沿の市街地で不動産オーナーと起業者をつなぐ「そうかりノベーションまちづくり」事業が昨年度から本格的にスタートしました。第1回スクールにより事業化したお店も生まれています。

<http://www.city.soka.saitama.jp/li/050/010/050/index.html>

そこで、草加市役所産業振興課長さんから草加市の取組のお話をうかがい、旧道沿いの空き店舗、空家等の活用事例を見学しました。

本企画は、「まちをほめる」をテーマとした埼玉住まい・まちづくり交流展 in 宮代 2017 リレートークのポスト企画として開催したものです。

交流展のまとめで整理した「まちの盛り上げか方」について、ステップ1の「見つけて、みがいて発信」から、ステップ2の「活用して発信」、さらにステップ3の「活用の連鎖」のうち、ステップ2、ステップ3に焦点をあてて、企画したものです。



## ■ 日時 2017年8月26日(土) 13時45分～17時

## ■ タイムスケジュール

13:45 草加駅改札口前→徒歩→草加市役所 14:00～14:10 企画趣旨説明、14:10～16:00「そうかりノベーションまちづくり」事業の概要説明、質疑→16:00～17:00 旧道沿道エリアまち歩き、リノベーションスクール事業化店（野菜とお酒のバル スバル）見学(終了)→17:00～19:00 同店にて懇親会

## ■ ご案内 草加市役所自治文化部産業振興

課 高橋課長、小林係長ほか

## ■ 主催 建築学会埼玉支所

共催 まち歩きグループ TEKUTEKU

TMU都市と住宅を考える会

## ■ 参加者：青田真芳、新井和博、井手幸人、石橋仁子、上野朋子、遠藤良顕、大竹亮、小川美由紀、神山裕子、岸本規生、木下芳郎、栗原徹、桑田仁、呉祐一郎、坂本一成、



佐々木誠、佐藤孟、重枝壮洋、徐華、鈴木丞治、高橋謙、田邊望、時田芳文、  
中村要、中村智史、古里実\*、村上知史、横田宣明

\*:コーディネーター

## ■ 参加者による評価、アンケート結果

### 1 今回歩いた今様草加宿のまちの評価とその理由

(評価の計算：A：非常に良い＝5点、B：良い＝3点、C：普通＝1点、D：良くない＝1点)

AAAAABBBBBBBBBBBBBBBBBB C+C =3. 27

A：小さいエリアからのまちづくりのコンセプトが明確になっていました

A：行政の隠れた動きに民間活力が爆発・炎上して極めて良い流れが出来ている。

A：熱意を感じるまちづくりを進めている。

A：草加リノベーションまちづくりの仕組みが活かされ、実現に到達していること。

A

B：「まち」としてはA。「まちなみ」としてはB。

B：リノベーションした後の建築が街並みの景観とマッチしていた。

B：魅力的な人達が集まる兆しが、目に見えるかたちであらわれはじめている。

B：リノベーションの効果はまだ限定的でも活気が出始めている様子がわかった。

B：マンションなどが混在し、旧宿場町の面影は少なくなっているが、点在しているリノベーションしたお店や街道に入る路地などにセンシュアス（官能的）な魅力が生まれる可能性を感じる。

B：非常にコンセプトが尖ったリノベーション物件が点在して今後の発展が期待できる。

B：小さな個店に個性と活気がある。

B：道路に面した商店が楽しく、まちを歩いていて宿場町の地割が生かされていると感じた。駅前に人通りが多く、一見して活気があると感じられるのがよかった。購買行動が市外に向いているというお話があったが、今後のリノベーションまちづくりでその活気を街に向けられるといいと思った。

B：初めて訪問した草加の街並み、マンション群の風景に吃驚致しました。この環境でのまちづくり運動は大変だろう



なあ、と正直思います。

B：高層の建物も多いが、まちの人々が自ら動いてまちづくりを進めている元気のあるまちであるから。

B：マンションなどの開発が進んでいるなかで、今のまちの雰囲気を大切にしながら、地域コミュニティや賑わいの再生を目指しているところが、非常に好感をもてました。一方まちづくりとしては、まだまだこれからが大変であると感じました。

B：歴史を感じさせる建物などはあまり無いが、街割りなどを見ると宿場町の雰囲気は感じられる。駅周辺のマンション化はやむを得ないが、開発をもう少し上手く誘導すれば、景観を良くすることができたと思う。

B：点在する、がんばっている商業施設が醸し出す気配が良かったです。また、周辺にバイパスが整備されているためか、交通量が比較的少なく歩きやすかったです。

B：街道の旧家や寺町の路地、煎餅屋の並びなどに歴史的な面影が残されている。また、駅前の商業施設や新住民の増加で町に活気が保たれている。しかしながら、街並みや風情は失われつつあり、いかにリノベーション等で保存活用して魅力を高めていくかが課題。

B：空き店舗や公共空間の活用が図られ、実際に地域経済の活性化に寄与している印象を受けました。ただし、それぞれが離れた場所に点在していること、飲食店であることから、日常歩いて感じる活性化まで高めることは難しいことなのだなと感じました。その為、AではなくBとさせていただきます。

C+：いくつか始まったリノベーションの波が市の取組に後押しされ今後広がることを期待して、まちの現状は少々厳しいですがC（の上）としました。

C：まちの新陳代謝を感じましたが、情報なくして歩くと魅力発見が難しいかも。

## 2 今回歩いた草加宿のまちで印象に残ったところ（場所）等とその理由

○蔵カフェ中屋：古い民家のリノベーションで屋根の骨組みが見え、ヒューマンスケールも感じがよかった。前庭もあって、人の家に入るような雰囲気





気だった。

○蔵カフェ中屋：幸手での同様のケースが出てくれば良いと思ったため。同じような物件はいくつかあるので。

○蔵カフェ中屋：完璧。・・・中途半端感が一切ない。

○蔵カフェ中屋：蔵の利活用がうまくいっていた。

○蔵カフェ中屋：お客さんが多く入店しており、にぎわっており、蔵の活用方法として大変魅力的であると感じたから。

○蔵カフェ中屋：蔵造りをそのままに改装してあり、昔ながらの雰囲気がとても良かった。

○蔵カフェ中屋：店内の落ち着いた雰囲気など、地域の方々に愛されるリノ

○蔵カフェ中屋：個人で行っているリノベーションとしてはとても頑張って蔵の良さを残して活用していました。

○蔵カフェ中屋：歴史的な建物を持つオーナー自らのリノベーション物件としての質の高さを感じる。

○蔵カフェ中屋：蔵づくりの良さを生かして、カフェとしてうまく活用している。

○スバル：開口が広く、道と建物の境目がないように感じた。

○スバル：地域の人が入りやすいファサードと料理

○スバル：オーナーががんばっており、人々が集まってくる

○スバル：一人で来ても居心地が良さそう

○スバル：普段の様子はわかりませんが、市のプロセスを経て実際に実現したこと、その後も運営ができて草加のまちに影響を与えていることが素晴らしいですね。

○スバル：旧街道に対してガラス張りの店構えが、お客さんの様子や賑わいが伝わってくるようで、好感がもてた。

○スバル：そうかりノベーションスクール1号店



として順調な経営とのこと。オープンな開口部が夜の街の灯かりとなっている。

○スバル：18年間営業をしていなかった場所がリノベーションまちづくりにより蘇ったこと。しかも素晴らしい特色ある店になっていること。

○スバルなどのリノベーション物件：地元の方だけでなく、観光客や来訪者にとっても行きたくなるような魅力的なお店だと思いました。

○バルスバル、酒場みどり：どちらも小さい店だがセンスが良く隠れ家にしたい！

○酒場みどり：入りたくなる入口の雰囲気と、他に若い人、年配の人が自然に入っている様子がいい印象でした。

○カフェコンバージョン：手をかけ続けることで、落ち着く場所、愛着ある場所になっていると思いました。ゆっくりできる素敵なお店でした。

○カフェコンバージョン：こじんまりして居心地が良かったし料理もユニーク！

○カフェコンバージョン：オーナーの強いこだわりが感じられる。

○カフェコンバージョン：店主さんのセンスのよさが店にあらわれていた。

○カフェコンバージョン：がんばっているオーナー／2階が空いて、今後、新たな展開が始まる可能性。

○カフェコンバージョン：オーナー様の地元に対する愛着と、11年も継続している歴史、があいまったパンケーキは最高でした。

○カフェコンバージョン：11年前からの経営。草加リノベーションまちづくりに先鞭をつけたお店として風格あり。

○レンタルキッチン恵登屋：新たな share 方式の実現

○よろずキッチン恵登屋：飲食店の気軽に始められるレンタルキッチンの仕組みが素晴らしい。うちのまちにも欲しい。

○FUN-KEY SOKA SOKO Grill & Bar：物件はど





ここにでもあるもの。関係者の前向き理解、意識が形となったものだったため。

○街道から脇に入る路地空間：みがけばセンシュアス（官能的）な魅力が生まれそう。「みどり」などの若い経営者の居酒屋が出店している路地もその兆し。

○道路と路地：車が多いなか、地元の方が路地を抜け道のように使用していて、  
日常に溶け込んでいるところが印象的でした。

○短冊状の細長い敷地：思わず引き込まれる。

○草加せんべい店：誰もが知っている名産品です  
し、小さいお店で買った煎餅は素朴な味で美味しかったです。お店ごとの味の違いをもっとPRしては。

○廃墟／空き家空き店舗：リノベーションしがいのある空き家空き店舗が町に点在している。

○古い商店：ノスタルジックな魅力になっているが、経営が成り立っている商店はどの程度の割合なのか気になった。

○旧日光街道：スモールエリアの選定についてイメージが持てました。

○旧日光街道沿いの民家：蔵造りの大きな商家がいくつか残されていて歴史性を感じる。

○旧日光街道沿いの商家群：重厚な蔵造り・町家建築が散見され、保存を願う！

○市役所隣の浅古邸：東西方向に奥行きのある草加の町家の代表的な建物。手入れが良くされている。公開されていないのが残念。

○藤城邸：国登録有形文化財で、隣接地と店先がオープンにされている。

○歴史民俗資料館：風格のある建築なので、上手く活用できれば。

○草加市立歴史民俗資料館：旧小学校校舎の洋風建築を活用しているのがいい！

○草加小学校旧校舎：歴史を感じるモダンファサードが素敵。

○人通りの多さ：駅周辺は活気があった。少し離れたエリアに住んでいる人は駅周辺の地域とどのような関わり方をしているか気になった。

○マンション：草加だけでなく、南北軸を持つ旧街道で普遍的に問題が発生しているから。

○沿道から一側入った所に建ち並ぶマンション：板状の建物がドミノように並んでいる風景は印象的。



○板状大規模マンションが並ぶ通り：若い世代が入ってくることは貴重なことですが、街並み、特に景観にはいいとは言えないです。マンション開発に際して通りに面した部分（空間）に何か地域貢献を求めることはできないものでしょうか

○ボードステージ：（後日インターネットで調べたところ）使われていない空間  
を上手く活用している印象を受けました。

○活用提案を募集した公共空地：面白い活用がなされることを期待するから。

○駅前通りの道路買収残地：中心市街地のほぼ中央。駅前通りとの交差点。民間による公共空間の活用に期待します。

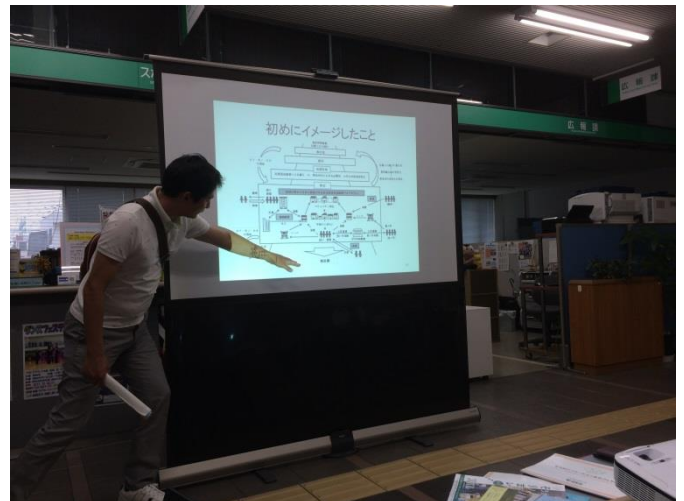


○タイムズ駐車場の看板：企業カラーの黄色ではなく、周囲の景観を損ねないものだった。古都や宿場のなごりを売りにしている全国的な観光地では見慣れた光景だが、玄人向けのロケーションであって、こういった細部まで気が配れているところに感心しました。

○高橋課長さんをはじめとする市役所の方の熱心さ：市役所での説明を聞いた時点で草加市役所の皆さんの熱意はすごい！と思いました。

○市の仕組みづくりと実践への熱意：リノベーション物件（場所）もさることながら、最も印象に残ったのは、草加市の担当部課の仕組み作りと実践への熱意でした。

○今回の講演内容：まちおこしの進んだ活動の仕方を学べた。



3 そうかりノベーションまちづくり事業（旧市街地の不動産オーナーと起業者をつなぐ）についての評価（A, B, C, D）と理由

AAAAAAAAAAAAAAAAABBBBBB B=4. 48

A：「敷地価値なし、エリアに価値有り」の理念のもと、地元遊休不動産オーナーを一軒一軒口説きながら対象物件を増やし、若い起業者を育てる企画をきめ細かく打ち、両者をつなぐ取り組みを市が行政計画として位置づけ、民間には補助金を給付しない形で実践していることが素晴らしい。

A：既成市街地の新しい活性化の方策について、情報や人をたどり市の企画につなげて、市役所内や地元市民と調整、協議を図って、地元の課題に対応したテーマにあわせて実現させている熱意と調整力、行動力に心から敬意を表します。

A：まちへの愛着とアイデアをもった起業者と  
同じくまちへの愛着をもった不動産オーナーを繋ぐこのリノベーションまちづくりは、補助金に頼らずに、人を育て、まちを育てる素晴らしい事業であると感じました。

A：補助金に頼らず事業を進めているところ。

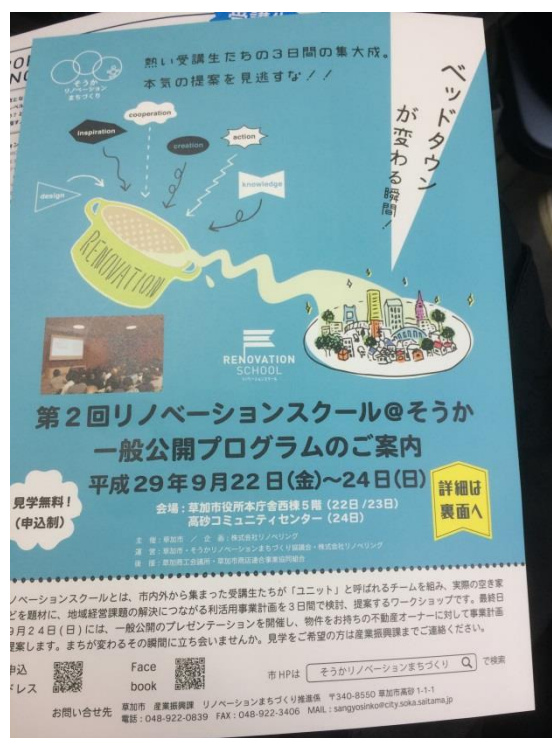
A：補助金を一切使わないという潔さと、お役所には稀なフットワークの良さ、子育て世代の地元奥様の参加等、目からウロコの着想と実行力には感服致しました。

A：既存商店の活性化でなく、遊休資産を利用して新しい事業を誘発しようという視点が画期的と思う。派手なリノベーションスクールの裏側で、不動産オーナーを訪ねて説得する地道な市役所の努力に敬意を表したい。起業者には「助成金をあてにするな」と言いつつ、主催者側はしっかり補助金を活用しているところも上手い。

A：職住近接のクリエイティブな人が集まるまちを、民間や住民主体で持続的に展開させる仕組みがある。

A：具体的な案件をもとに、密なワークショップを行うことにより、事業を行っていく上での大きな財産となる仲間のつながりや事業展開のヒントが生み出され、濃縮される感じがしました。また、発表動画からは大人の学園祭という感じもあり楽しそうでした。

A：事業による取り組みの他にも実際に波及効果が出ている点が優れていると思った。リノベーションまちづくり事業を行なっているということを、プレイヤ





ーだけに知らせるのではなく、一般の人にも広く伝えることが重要と感じた。

A：まちの歴史を残しつつ、起業による新たな魅力づくりが草加のブランド力となり、住んでみたい街となっていくための重要な取組です。

A：これからの時代に必要される行政の仕事をしている。

A：今の時代にあった、やり方だと感じました。

A：新しい行政の取組みとして素晴らしい。

A：実施まで到達していることから。

A：高橋課長の情熱と見識に感心致しました。地道な努力を評価しながらも、人口24万8000人規模の大都市草加市での効果、市民への訴求力は如何なものかと、いささか不安にもなりました。

A：行政の隠れた動きに民間活力が爆発・炎上して極めて良い流れが出来ている。

A

B：革新的で思い切った事業だと思っています。

B：まだ人口が増えているのに、将来を見据えてリノベーションまちづくりを進めているのは非常に先進的。街全体から見ると、まだ「点」だが、複数の点がつながって「面」になると、街全体が面白くなると思う。

B：不動産オーナーの悩み、起業者の悩みを解消し、双方にメリットがあるもので大変魅力的な事業であると思います。また、このような事業では行政からの補助金等を検討しがちであるところ、補助金なしであることに加え、まちの人々が主体となってまちづくりを進めていく実施体制となっている点が参考になりました。

B：事業についてはとても良いものだと思いますが、これから続けていくにあたって、引き受けてくれる不動産オーナーと起業家を見つけていけるか不安定であると思う。

B：非常によいシステムができています。ただし、プロポーザルについてはもっと宣伝した方がよいです。参加したかったものは締め切りの後分かった。

B：事業のセーフティーネットの整備もあるといいと思いました。

**4 草加で取り組まれている「リノベーションまちづくり事業」は、あなたのまちでも取り組むことが可能な普遍性のある事業だと思うか？「思う」「思わない」「どちらとも言えない」のいずれかを選んで、その理由をコメント**

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇×△△△△△△△△

☒ **〇思う：62.5%**

〇広報に力を入れ、わくわくするイメージをつくりあげて一大イベントにしていることが大きな勝因だと思う。都心から離れたエリアでも、対象とするエリアや

規模を限定することで可能な事業であると思う。  
 ○地価や家賃のギャップがあるエリアを抽出し、  
 そこでできる範囲の資金を上手につかって活性化を仕掛けていくというアプローチは、杉並区内でもできると思う。

○再開発が成立しにくく（普遍性が少なく）なりつつある現在、リノベーションの方がまちづくりの普遍的な手法ではないか。耐震性を確保しつつ住宅（戸建・集合・シェア・高齢者向け）にも展開し、マンションやミニ戸建に対抗できれば、さらに普遍性が増すと思う。

○空き家の探し、事業主の探しなどは、他の町でも参加になる。

○「地域資源は人である」といわれた通り、場所はどこであれ、取組もうという魅力的な人が3人以上いて、遊休不動産があれば可能だと思う

○人口減少傾向は、市街地に顕著に表れています。空き家対策としても有効と感じました。又、人口規模の分母の小さな町村での運動としては、より効果的だろうと思います。Y町のS商工会長には、早急な草加市高橋課長とのネットワークを推薦しておきました。

○この手法を知り、理解できれば誰しも納得させられる。

○人が集う場作りの再生に繋がる手法だと思う。

○仕組みづくりがこの事業の核心であることから。

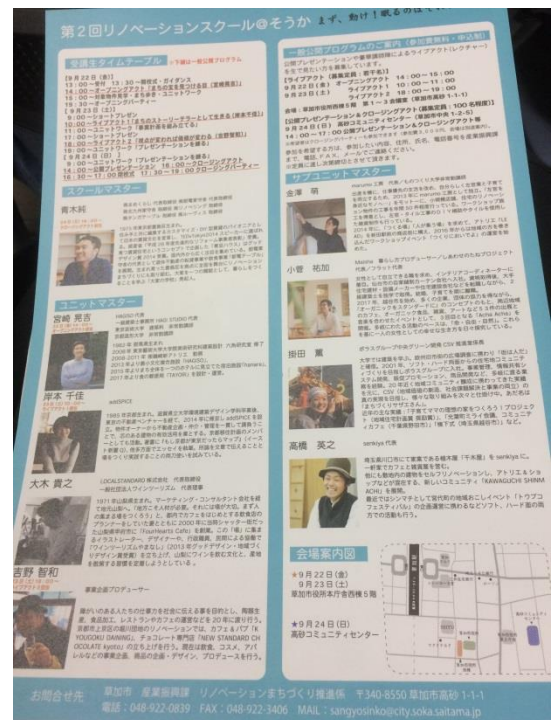
○リノベーションによりまちを生まれ変わらせることは、ひとつの有効な手段であると思います。

○事業手法といっても個別に検討すべき点が多いので、各地の特性をきちんと考慮すれば適用範囲は広いと思った。

○方法はいろいろ考えられるべきだと思いますが、ストック活用の時代において、求められている機能やその場所の確保をリノベーションで実現することは必然です。

○ただし、行政、オーナー、起業者を繋ぐ役割は、幸手における人口減少や若者の減少、商業環境の減退等を考えると、時間が必要と思われる。

○学ぶ機会と方法が重要で、リノベーションまちづくりセンターの役割が大きい。知識やノウハウが必要。しかし、地域性があり、住民活動や起業が受け入れやすい地域と受け入れにくい地域がある。行政の継続的な啓発活動が重要。



○まちの規模や経済のポテンシャルに地域差はあるものの、空家、空き店舗を抱える不動産オーナーは各地にあり、その地域での起業や居場所づくりのニーズは存在している。あとは、両者をつなぎ育てる「リノベーションスクール」のような技術を持った組織や人材を確保できるかにかかっていると思う。

**×思わない：4.2%**

×残念ながら我が故郷では、これほどモチベーションの高い人材（住民の方々、お役所の方々）が見当たらない為。とても残念です

**△どちらともいえない：33.3%**

△自分のまちにやる気のある不動産オーナーと起業家がいるか疑問であるから。  
△家守会社と事業オーナーとの一体化が進むなど、旧態然とした地域には難しい。  
△現在は商店よりも不動産収入メインで生計を立てている方が多いです。趣旨は分かっても、身銭を切ってまでとなると・・・関係者のマッチングに時間がかかると思います。

△ほとんどのまちでリノベーション事業を行うことはできると思うが、リノベーションスクールを運営できる人は限られているので、普遍性のある事業になるかどうかはわからない。

△シャッター商店街などの課題は共通する課題なので、リノベーションスクールの様な場を作ることができること、清水義次氏や嶋田洋平氏など、人を集める（特にプレイヤーとなる若者が魅力を感じる）講師を呼ぶことができれば可能だと思います。

△不動産オーナーの建物活用のニーズと、起業者の当該地域での起業ニーズのマッチングが重要な点であると思うが、双方のニーズの掘り起こしができれば実施可能であると考えます。一方のニーズが満たされない場合には実施が難しいと考えます。しかし、草加市職員の皆さんのように、粘り強く不動産オーナーと交渉し、起業を促進する仕掛け（リノベーションスクール等）を実施することで、双方のニーズをかきたてる工夫ができれば、普遍性のある事業に近づくのではないかと考えます。

△リノベーションまちづくり事業は、素晴らしい取組であると感じましたが、ベッドタウンでの事例は草加市さんが初めての試みということから、まだ沿線の同様のまちでも取組可能な事業かどうか分からないため、どちらとも言えません。

△横浜市青葉区在住です。今は、常に駅前の店舗は更新されており、週末には人が溢れています。空き店舗の再生は商業ベースで行われていますが、「リノベ



ーションまちづくり事業」のような手法で人と人がつながるきっかけをつくることは大事だと思います。

## 5 今後の草加のまちづくりについて、あなたの提案やアイデア

- 既存住民からクリエイティブな人材を発掘し、関わってもらう。特に、点在する分譲マンションにそのような人材が少なくないはずで、マンション住人と交流するきっかけづくりをする。例えば、既にあるリノベーションまちづくり協議会に新たな部会を立ち上げて、推進活動をはじめ。
- リノベーションまちづくりによって、地元でやる気のある人の発掘ができたが、次の段階として、それらの人々が主体的にまちと関わり続け、さらに新しい人達へと拡げてゆく仕組みができると良いと思う。
- どなたかが言っていたかもしれないが、今草加に住んでいない人も、草加のまちづくりを応援できる仕組み（サポーター制度/クラウドファンディング）があって、新しくできたお店の案内や、寄付金に応じたお店の割引券などが発信されると面白いのでは。
- 期間限定の事業（イベント？）を考えるワークショップはどうでしょうか。「ちょっとだけ何かしてみたい」人にとって、一歩を踏み出すチャンスになるかもしれないです。
- まちづくりに関しての動画を SNS や YouTube 等に投稿すると興味を持つ人が増えると思います。（参考までに北海道夕張市の動画が素敵です。）
- 空き家、空き地については、もっとコンペか、プロポーザルを行った方がよい。街並みの快適さを発展させるため、街路空間計画の協定条例などを提案した方がよい。
- スバルやみどりはいい雰囲気、空間でした。民間の媒体にお洒落なお店としてうまく取り上げてもらえるといいですね。点々とつながると市内だけでなく市外からも来て歩く人も増えるのでは。
- 旧日光街道を歩く環境が、（拡幅後も）安心、快適という面で今ひとつのように感じました。歩道と車道の境にところどころでも植栽とベンチを設けるとか、もう少し歩きやすい道になるといいと思います。
- 街道が通過交通として利用されにくいように速度を遅くする仕掛けがあると、歩行者がもっと利用しやすくなると思った。
- 対象地域について、マンションの進出が進んでいる。
  - ・一部には、セットバックして公共空間を生み出している。街の閉塞感を和らげている。
  - ・街道に面した低層部分のファサードを和風の作りに誘導できると更によくなる。

・街道に面した低層部分を商店に誘導するとにぎわいが生まれる。

そのためには、地区計画や景観計画による規制誘導が必要であり、街道沿いの住民意識の醸成が必要。

○若い人が多く活気ある街だが、本来の持ち味である旧家の保存継承や煎餅屋さんなどの職人仕事が続くことが必要。そのためには、街道筋を歩いて歴史を体験できる場に再構築していくのも効果的ではないか。日光街道の各宿場（千住から古河まで）と連携した取り組みに期待したい。

○旧街道の脇から入る路地空間沿いの遊休不動産をリノベーションすることで、草加の街に、普通のベッドタウンには無いセンシュアス（官能的）な魅力が生まれそうです。

○まちづくりという観点においては、地域経済の活性化だけでなく、公共交通・福祉・景観・歴史など様々な分野が関連すると思います。今後のリノベーションの事業が、障がい者支援であったり、観光であったりと拡がり、行政においても様々な部署が連携してまちを良くしていく流れが生まれてくると良いと思いました。

○イベントを定期的に企画し、草加のファンの拡大と定着化。

○どんどん事業を進めて、全国の見本となって欲しい。

○特にありません。この方向性がベストだと思います。

## 6 その他、今回の企画に参加しての感想などを自由記入

○4月の交流展、今回の8月の見学会とあわせて、地域を越えた学びや連携の姿が少しずつ見えてきたと思います。公務員の方々の参加が多く、行政の広域連携の萌芽も感じました(S.M)。

○大変刺激を受けました。大変なことはいろいろあるでしょうが、そのうえでとても楽しそうに、まちづくりに取り組んでいらっしゃるのが印象的でした(K.H)。

○地域を楽しみ地域で暮らすための仕掛けを、若い世代が中心となってたくさんつくることはとても素敵だと感じました。また、運営費用に補助をしないこともとても良いと思いました(U.T)。

○前半の公演がとてもわかりやすく、後半、歩くのが初めてでも理解を深めることができました(K.Y)。

○最初は草加といったらせんべいというイメージだったのですが、高橋さんのプレゼンや街歩きをして見方が一気に変わりました。貴重な機会を設けていただき、ありがとうございました(T.N)。

○草加市の高橋課長さんを始め皆様方のエネルギーには圧倒されました。今後の

- 更なるご活躍をお祈りいたします(S.J)。
- 非常によい企画で、まちの発展につながると思われる。今後ともこのようなイベントがあった方がよい。もしまちの景観に関わる条例などを検討することになったら、討論会なども考えられる(X.H)。
  - 関係者や行政にとって覚悟のいる一歩だったと思う。今後にわたっても賛否あると思うが、方向転換して動き出したこと自体に評価が得られることだと思います(N.T)。
  - あらためて「まちづくり」とは、どれだけまちに愛着をもって取り組むかが大切であると感じました。また、人との繋がりとは非常に重要であると思いました(N.K)。
  - まちづくりは、それをリードする人間の情熱と魅力だ・・と改めて実感いたしました(T.Y)。
  - 素晴らしい。こんなスーパ公務員がいたなんて。うちにもほしい!(A.K)。
  - 素晴らしい企画でした。古里さんお疲れ様でした。高橋産業課長さんの今後の益々の頑張りを期待します(T.K)。
  - 草加のまちの魅力を高めるために、熱意を持って取り組まれていることを、直接お話を伺うことで実感させて頂きました。貴重な見学会の場を設けて頂き大変感謝申し上げます(S.K)。
  - 草加市で、今の時代に合った地域活性化の手法を見ることができました。今後も草加市でのまちづくりを参考にしていきたいと思います(S.T)。
  - 今回の企画に参加して、大きな刺激を受けました。草加市職員の皆さんが危機感を持って、何とかまちを盛り上げていこうと、日々汗をかいている様子を目の当たりにし、私のまちづくりに対する考え方を反省しました。私も危機感を持って、まずは現状を分析していきたいと思います。そこから見えてくる課題に対して、地域と民間と行政が一体となって解決できるような仕組みを検討していきたいと思います。本当にありがとうございました！(E.Y)。
  - 土曜日にもかかわらず、ご案内いただいた市役所の皆さんにお礼申し上げます。東京近郊では前人未到の試みに果敢に挑戦する行政の姿勢に全く感服しました。しかも、まちが確実に変わりつつある！ ランチのカフェ、交流会のバル、二次会の酒場と素敵なお店がたくさんありました。また訪れたい町です！(O.R)
  - 土曜にもかかわらずよそ者に対して丁寧に対応していただきどうもありがとうございました。市民の生活の満足感、市への愛着心を高め、ひいては市の価値を高める活動と理解しました。また、まちづくりに関わる者として、都市の私有と公共公益性の問題や、役所・市民・関係者などが加わったマネジメント



を横断的に行う場づくり、また実際の活動の担い手探しなどを解決するアイデアを考えていくことが必要だという、これからの課題を改めて認識させられました。市のまちづくり活動が市民の中に今後一層浸透していくことを期待します(G.Y)。

○草加市の担当部課の意欲と指導力・行政能力、および、草加市民のやる気と企業経営的能力という要素が、スクール等の仕掛けを通じて上手く噛み合っている事業と受け取りました。事業の今後の継続と発展にどのような仕掛けを予定しているのかを知りたいと思いました(O.M)。

○リノベーション店（スバル等）がどうなっているか、新しい店舗が開設していないか等を探するなど定期的に草加に訪れたいと思いました(I.Y)。

○草加の街については駅前再開発しか知らなかったのですが、リノベーションまちづくりの説明を受け、事例を見て、さらに懇親会ではお店も体験できたので、草加のまちのイメージが全く変わりました。これからが楽しみです(K.T)。

○交流展リレートークのまとめで整理した「まちのもりあげ方」のうち、ステップ2の「活用して発信」ステップ3の「活用の連鎖」に焦点をあてた今回の企画に、草加市の高橋課長さんのお話は、十二分に応えていただく内容でした。「敷地に価値なし、エリアに価値あり」「まちづくりはまちのコンテンツづくり」「最大の地域資源は人」というキーワードや、リノベーションまちづくりを草加から東武線沿線に広げていきたいという市職員の枠を超える発言に意を強くしました。今後も草加から目が離せません(コーディネーター:古里実)。

